

令和7年度 第2回東北森林管理局保護林管理委員会 議事概要

■日時：令和7年1月28日（水）14:00～17:30

■場所：東北森林管理局 4階第3会議室（WEB会議方式併用）

■議題

（1）審議事項

ア 保護林モニタリング調査について【資料1、2、3】

イ 五葉山生物群集保護林における植生回復の検討について【資料4】

（2）報告事項

ア 令和7年 朝日山地森林生態系保護地域部会の概要報告【資料5】

イ その他（クマ被害対策パッケージ）【資料6】

■議事概要

（1）審議事項

ア 保護林モニタリング調査について

今年度実施中の保護林モニタリング調査結果及び評価について報告した。

【委員からの主な質問・意見】

- ・ 到達困難なプロットに代わり、代替プロットを設定されたがその理由は何か。
- ・ 鳥類調査の調査方法の違いが反映されてしまっているので、比較自体ができないのではないか。
- ・ 調査方法やプロットが変わっている場合はモニタリングとしては機能していないので表現に留意が必要。
- ・ 動物調査の成果がみえないため植生調査に注力してもよいのではないか。聞き取り調査が本当に必要か検討してはどうか。
- ・ 松枯れ被害が入っているかどうか、5年単位でモニタリング調査をするか、モニタリング調査が難しければ被害状況の確認だけでも注視していくべき。
- ・ キタゴヨウかヒメコマツかが判別できない問題についてはしっかり調べるべき。
- ・ 広大な保護林としてはプロット数が少ないため、調査計画の見直しが必要ではないか。
- ・ プロット内に保護対象樹種が生育していないが、設定を見直すべきではないか。
- ・ プロット設定や見直しの考え方、モニタリング調査で最低限必要なプロット数の考え方などは今後整理し、モニタリング計画に反映させていく必要。
- ・ 早池峰山については地域でシカの調査や植生保護の対策を実施されているが、その結果なども考慮すべき。

- ・他の団体や機関などの調査内容も共有できるようにして活用することも有効ではないか。リモセンなど新しい技術の活用による林況の把握など効率化も検討すべき。
- ・保護林において、病虫獣害や、遷移が進んだことなどにより、保護対象種が消失した場合は、どのように扱っていくのか、モニタリング調査の結果を踏まえてどうしていくか、ということも長期的な課題。

【事務局】

- ・到達困難なプロットは、山泊を伴うことに加え、道中に危険箇所が含まれていることから、継続性が困難と判断し、代替プロットの設定を検討した。
- ・保護林の種類や病虫獣害の緊急性等を踏まえ、優先度を勘案して調査手法及び調査計画を整理していく。
- ・保護対象樹種が複数樹種あるため、今回のプロットで生育していない樹種があったものの、次期調査では今回と異なるプロットで調査をして網羅していく考え。
- ・課題のある保護林については、対策の実施の可否を考えつつ、優先順序をつけて対策をとっていくこととなる。

イ 五葉山生物群集保護林における植生回復の検討について

第1回保護林管理委員会で審議いただいた委員会のご意見を踏まえた今後の対応方針（案）について説明し、追加の意見聴取をおこなった。

【委員からの主な質問・意見】

- ・更新過程を把握するうえで、どの段階で更新の阻害要因があるかを把握するためにシードトラップ調査が必要と思料されるが検討されたか。また、モニタリング調査は、5年又は10年に1回なのか。
- ・防鹿柵の設置等、スケジュールを教えてください。

【事務局】

- ・天然更新が上手くいかなかった場合に、何が要因かを分析することが大事であるため、シードトラップ調査を実施する方向で検討していく。モニタリング調査は毎年実施することを検討している。
- ・令和8年の春に現地作業（枝条の分散及び防鹿柵の設置）を予定している。

（2）報告事項

ア 令和7年 朝日山地森林生態系保護地域部会の概要報告

令和7年6月5日に開催した朝日山地森林生態系保護地域部会における審議事項

と報告事項について概要を報告した。

イ その他（クマ被害対策パッケージについて）

クマ被害対策パッケージ（概要）について報告した。

（以上）